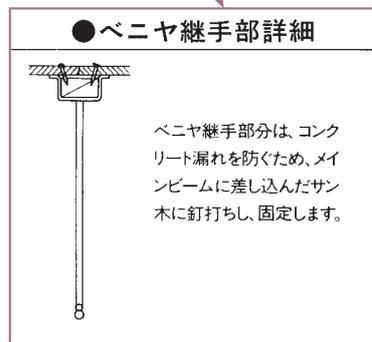
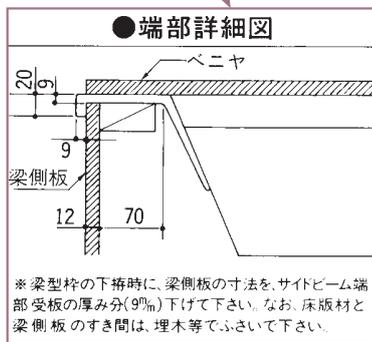
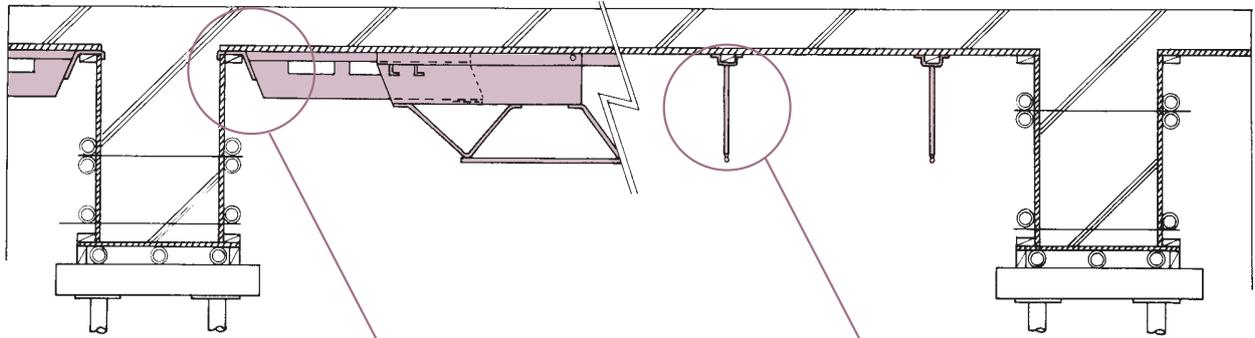
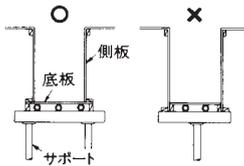


AX ビーム施工方法

施工例

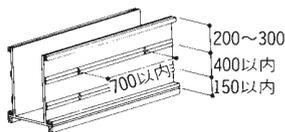


※ 梁型枠下の支保工用サポートは、必ずダブルにして立て下さい。この場合必ずしも受金具の下に立てる必要はありません。



※ セパレーターは、梁型枠側板の座屈を防ぐため、下図のように垂直方向400%、水平方向700%以内の間隔に取付けてください。

セパレーターの取り付け方



※ コンクリートは局部的に推積させないように打設して下さい。※ ビームには集中荷重がかからぬ様、ご注意ください。

※ ビームをかける梁型枠はそれぞれの側板でスラブ重量を支えます。いたんだコンパネや古いコンパネの使用は避けてください。又、側板の高さが75cmを越える時は、縦積木を入れて補強して下さい。

ピッチ表

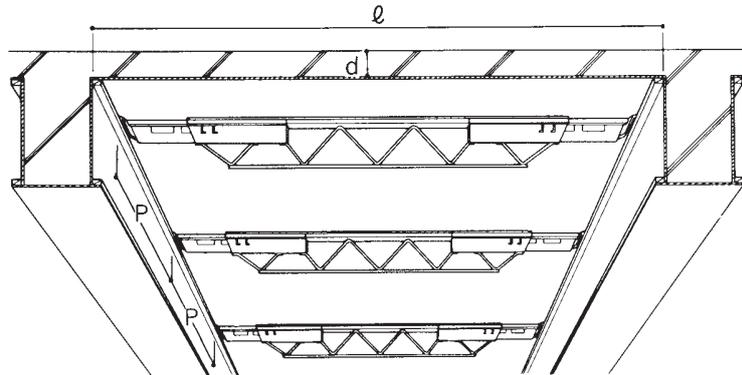
● ピッチ表(ベニヤ使用)

床版厚 (d寸法) cm	コンクリート重量 W ₁ kg/m ²	W ₁ + W ₂ + W ₃ kg/m ²	(ℓ寸法) ビームスパン (cm) ※ ビーム長																				
			110-250	260	270	280	290	300	310	320	330	340	350	360	370	380	390	400	410	420	430	440	450
			(P寸法) ビームピッチ (cm) ※ 架設ピッチ																				
12	288	488																					
13	312	512																					
14	336	536																					43
15	360	560																					43 41
16	384	584																				43	41 39
17	408	608																				42	40 38 36
18	432	632																				42	40 38 36
19	456	656																				42	40 38 37 35
20	480	680															41	45	43	41	39	37	35 34
21	504	704															40	43	41	39	37	36	34 33
22	528	728															40	38	42	40	38	36	35 33 32
23	552	752															39	37	41	39	37	35	34 32 31
24	576	776															40	38	36	39	37	36	34 32 31 30
25	600	800															39	37	35	38	36	35	33 32 30 29
26	624	824															38	36	34	37	35	34	32 31 29 28
27	648	848															39	37	35	33	36	34	33 31 30 28 27
28	672	872															38	36	34	32	35	33	32 30 29 28 26
29	696	896															39	37	35	33	31	34	32 31 29 28 27 26
30	720	920															38	36	34	32	30	33	32 30 29 27 26 25
ビーム機種			11-14/18/25	25-32												32-39						39-46	

※ ベニヤ使用のピッチ表については、床版材に12mm×900mm×1800mmの合板ベニヤを使用するものとして、ベニヤの強度、サイズ及び施工を考慮して作成したものです。



AX ビーム施工方法



●許容曲げモーメント

このピッチ表は、コンクリート重量+活荷重（『軽量支保梁の構造等の安全基準と解説』）を加算した最大荷重に対し割り出したもので、ピッチはa、b式より計算し小さい方の値を使用しました。

※ビームAX許容曲げモーメントM

$$P = \frac{8 \times M}{W \ell^2} \dots \dots \dots \text{a 式}$$

※ビームAX許容端部反力7.06kN(720kg)
(片側)

$$P = \frac{2 \times 720}{W \ell} \dots \dots \dots \text{b 式}$$

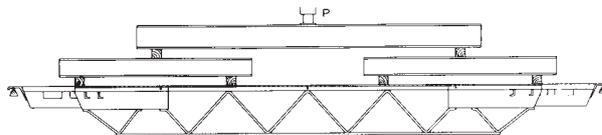
品名	許容曲げモーメント kN・m(kg・m)
AX11-14	M = 1.96 (200)
AX14-18	M = 1.96 (200)
AX18-25	M = 4.21 (430)
AX25-32	M = 5.19 (530)
AX32-39	M = 5.98 (610)
AX39-46	M = 6.37 (650)

$$W = W_1 + W_2 + W_3$$

- W = 総荷重 kN/m²(kg/m²)
- W₁ = コンクリート重量 kN/m²(kg/m²)
- W₂ = 活荷重 1.47kN/m²(150kg/m²)
- W₃ = 仮設荷重 0.49kN/m²(50kg/m²)

強度試験

●試験方法(2本一組) 4点集中荷重(『軽量支保梁の構造等の安全基準と解説』より)



●性能試験(試験長: 最大3900mmの場合)

荷重(kg)	200	400	600	800	1000	1200	1400	1600	1800	2000	2200	2400	2600	2800	3000
変位量(mm)	1.1	2.5	3.7	4.6	5.6	6.6	7.5	8.3	9.3	10.7	13.4	15.0	16.5	18.1	19.6

●試験結果

